

編集・発行：滋賀県立琵琶湖博物館 交流担当（はしかけ担当職員：中川・松岡）

住所：〒525-0001 滋賀県草津市下物町1091 電話：077-568-4811 ファックス：077-568-4850

電子メール：hashi-adm@biwahaku.jp 琵琶湖博物館ホームページ：https://www.biwahaku.jp

～ 目次 ～

1. 事務局からのお知らせ

2. はしかけグループの活動報告と活動予定

- (1) うおの会 (2) 近江 巡礼の歴史勉強会 (3) 淡海スケッチの会
 (4) 近江はたおり探検隊 (5) 大津の岩石調査隊 (6) 温故写新
 (7) 暮らしをつづる会 (8) 古琵琶湖発掘調査隊 (9) ザ！ディスカバはしかけ
 (10) 里山の会 (11) 植物観察の会 (12) たんさいぼうの会 (13) 田んぼの生きもの調査グループ
 (14) タンポポ調査はしかけ (15) ちっちゃなこどもの自然あそび(ちこあそ) (16) 琵琶湖の小さな生き物を観察する会
 (17) びわたん (18) ほねほねくらぶ (19) 緑のくすり箱 (20) 虫架け (21) 森人 (22) 琵琶湖梁山泊
 (23) サロン de 湖流 (24) 水と暮らし研究会 (25) 海浜植物守りたい

3. 生活実験工房からのお知らせ

4. その他の事項

会員数・・・378人

グループ数 25グループ

(2021年7月31日現在)

1. 事務局からのお知らせ

8月に入り、ひととき厳しい日差しが照りつけておりますが、皆様変わらずお健やかに過ごしてはいかがでしょうか。

さて、事務局より以下3点の連絡がございます。

■企画展「湖国の食事(くいじ)」について

7月17日(土)より企画展「湖国の食事(くいじ)」がスタートしました。郷土料理の展示や、湖国の食に関する知恵や工夫について解説しています。期間は11月21日(日)までです。ぜひご来館ください。

■びわ博フェスについて

本年度のびわ博フェスについては中止となります。社会情勢を考慮し、このような決断となりました。楽しみにして下さっていた方には大変申し訳ございませんが、新型コロナウイルス感染症が収束したあと皆様と再び催せることを楽しみにしております。

なお、開館25周年記念シンポジウムにつきましては令和3年10月23日(土)13:00～16:10にオンラインにて開催予定です。詳細につきましては、別途ご案内致します。

■新型コロナウイルス感染拡大防止に伴う「はしかけ」の活動基準について

はしかけ活動について滋賀県「コロナとのつきあい方滋賀プラン」のステージ判断基準に合わせ、事務局としましては、以下の方針としましたのでお知らせします。

	ステージⅠ 三方よしステージ	ステージⅡ 注意ステージ	ステージⅢ 警戒ステージ	ステージⅣ 特別警戒ステージ	緊急事態 宣言発令
はしかけ活動	屋内活動：実施 屋外活動：実施	屋内活動：実施 ※部屋の定員以下の活動は可。 飲食は厳禁 屋外活動：実施 ※30名以上の活動の場合は2班に分ける。飲食は非対面なら可	屋内活動：実施 ※特定少数の会員のみの活動は可。飲食は厳禁 屋外活動：実施 ※特定少数の会員のみの活動は可。飲食は非対面なら可	全面中止	全面中止

※ただし、活動の実施にあたってはメンバーや担当学芸員でよく話し合って決定して下さい。また、活動される場合には感染症対策は十分に行って頂きますようお願い致します。

(中川 信次)

2. はしかけグループの活動報告と活動予定



(1) うおの会

【活動報告日の活動会員数(のべ) 32名】

グループ代表アドレス: hashi-uonokai@biwahaku.jp

グループ担当職員: 田畑 諒一

【活動報告】

■6月20日(日) 第159回定例調査 場所: 日野川 参加者: 14名

終息する気配のないコロナ禍と、雨による中止、規模縮小が続いたため、今回はうおの会として久しぶりのまともな調査となりました。

4、5月に続き前日の雨の影響で川の増水が懸念されましたが、当日の水位は下がっており、無事に行うことができました。天気は晴れ。時間が経つにつれ青空も広がり、絶好の調査日和になりました。

コロナ感染防止対策のため、車に同乗し班に分かれての調査は行わず、全員で同じ地点の調査を行いました。今後しばらくはこのスタイルになりそうです。川に入る前に改めて、調査票の書き方や流速の確認方法など、今後の調査に必要な知識の確認も行いました。

たも網と投網で確認できた魚種はアユやオイカワ、カマツカ、ヨシノボリ類など11種でした。調査の後は、実物の魚を見ながら魚の特徴、同定ポイントの説明、確認をゆっくりしっかり行い、有意義な時間となりました。調査が終わってから、せっかく集まって胴長も着いたので、集合写真を撮ればよかった、と思っしまいました。

(報告: 竹元 冴矢)

■7月18日(日) 第160回定例調査 場所: 塩津大川、琵琶湖岸 参加者: 18人

真夏の調査では朝からの晴天が苦行になることが多いのですが、この日は琵琶湖から爽やかな風が吹いてくれ、適度に木立もあったので、快適な調査になりました。コロナ禍の中での調査なので、今回も車に分乗しての移動はせず、一箇所から歩ける範囲で調査を行いました。

まずは大川で投網による調査を行いました。代表して田中さんに投網を投げてもらいましたが、第一投からハスや大きめのアユが入りました。その後、希望者には投網の投げ方の指導を行ったのですが、女性や若い会員に“受講”希望者が多く、投網教室の続きは終了後に行うことになりました。その後、川と湖岸の二手に分かれて調査を行いました。

川の調査では足下を大きなニゴイやハスが泳ぐ中、ヨシノボリやヌマチチブ、ウキゴリなどのハゼ類を中心に、ドジョウなどが採れました。湖岸の調査はさすがにたも網では難しいものがありましたが、それでもたくさんのビワヨシノボリが網に入りました。また湖内での投網でカマツカやオイカワを採ることができました。多くの二枚貝や水草も確認することができました。

最後に中尾会長からビワヨシノボリを中心に、採れた生き物の解説をしていただき、この日の調査を終了しました。

(報告: 田昌彦)

<追記1>投網講座は終了後2時間以上も続き、皆さん上達し、アユ、ハスを採っていました。普段使わない筋肉が悲鳴をあげていることでしょう!

<追記2>琵琶湖最北端部となる塩津大川河口の浜に、ヌートリアの死骸がありました。このあたりに既に棲みついているのか、死亡個体が南の方から流されて来ただけか分かりませんが、気になるところです。

(追記: 中尾博行)

【活動予定】

今後当面は総会で決定した定例調査場所とは異なる場所での実施とします。現地集合し、集合地周辺を徒歩で分散して調査します。ご理解下さい。



塩津浜での採集



投網で採れたアユとハス



ヌートリアの死骸



(2) 近江 巡礼の歴史勉強会

【活動報告日の活動会員数(のべ) 0名】

グループ代表アドレス: hashi-junrei-rekishi@biwahaku.jp

グループ担当職員: 橋本 道範

【活動報告】

新型コロナウイルスのさらなる感染拡大の影響で再び活動を休止しています。

【活動予定】

蓄積データの編集などの作業を中心にして今後の活動計画を見直す。

(福野憲二)

*この活動に興味のある方は、上記メールアドレスにてご連絡ください。



(3) 淡海スケッチの会

【活動報告日の活動会員数(のべ) 9名】

グループ代表アドレス: hashi-sketch@biwahaku.jp

グループ担当職員: 梶永 一宏

【活動報告】

■ 6月20日(日) 参加者:5名

醒ヶ井の町を散策したり、油絵の具や水彩絵の具で風景をスケッチをしたり、それぞれ楽しく過ごしました。梅花藻の清流は本当に美しく、駅前のお店で新鮮な鱒料理にも舌鼓を打ちました。

■ 7月18日(日) 参加者:4名

オープンラボに集合ののち、水族展示室でウツセミカジカやナマズ等をスケッチ。オオナマズがねぐらから出て悠々と泳ぐ姿も見ることが出来ました。

【活動予定】

8月15日(日) 水族展示室およびオープンラボにてスケッチ(10時~16時)

9月19日(日) 花緑公園(野洲市)にてスケッチ。(雨天時は変更)



(4) 近江はたおり探検隊

【活動報告日の活動会員数(のべ) 17名】

グループ代表アドレス: hashi-oumihataori@biwahaku.jp

グループ担当職員: 橋本道範

【活動報告】

■5月29日(土) 参加者:6名

糸ボタンの製作。糸ボタンは、円盤状やリング状の土台に糸を巻いて作ります。もともとはボタンですが、小さく作るのは難しいので、今回はブローチやワッペン サイズで作ってみました。

■6月9日(水) 参加者:4名

糸ボタンの製作。糸や土台をいろいろ変えて作ってみました。糸を巻くときにレース糸や絹糸だとすべりやすいので、裏側にシールや両面テープを貼るとやりやすいことがわかりました。

■6月26日(土) 参加者:4名

糸ボタンの製作。リングのタイプは難しいので、円盤状の板に糸を巻くタイプだと簡単にできそうです。

■7月17日(土) 参加者:3名

地機で機織り。糸紡ぎ。



6月26日糸ボタン見本

【活動予定】

■織姫の会

7月28日(水)、9月4日(土)、29日(水)、10月9日(土)、27日(水)、11月10日(水)、27日(土)
12月11日(土)
(8月はお休みです)

(辻川智代)



(5) 大津の岩石調査隊

【活動報告日の活動会員数(のべ) 14名】

グループ代表アドレス: hashi-ganseki@biwahaku.jp

グループ担当職員: 里口 保文

【活動報告】

■2021年5月の活動

○猪子山付近の調査(参加者 10人)

日時:2021年5月23日(日)10:00~15:40 快晴、爽快

場所:能登川の織峰三神社、猪子山・北向岩屋十一面、猪子山公園

1. 調査の概要

中村さん達が以前から調査を継続している近江八幡・織山のコース沿いの調査と試料の採取を行い、流紋岩質火砕岩類の実態、また何度か調査をした織山南部の岩石との比較をし、広範囲な知識を得ること。素晴らしい近江中央の展望を楽しみ、日ごろのストレス解消と体力増強を図ること。好天に恵まれ、多数の参加を得、岩石はもとより植物などの知識も増え、意味ある調査となった。

2. 調査のポイント

伊庭山 織峰三神社の鳥居前に調査における安全対策、注意事項等について協議し、急坂の登攀、岩石の調査、クリノメーターによる測定、スマホによる標高測定等、また、現場での説明・討論を行い下記の知見を得た。途中、近江中央部の展望を堪能した。



図1 類質レンズ 細かい岩片が多数入っている(撮影 中村さん)

(1)伊庭山の急坂には何種類もの節理がある。また、坂の下の方に類質レンズ(図 1)がある。丹念に調査すると類質レンズはこの山に多数あった。

(2)伊庭山の岩は瓶割山溶結凝灰岩に近似している。

(3)尾根筋には巨石が所々に点在する。そこにも類質レンズが見られた。

(4)猪子山 北向岩屋十一面観音には高さ 3m、幅 5m 程の巨石がある。興味を起こさせる岩である。

この周辺からの展望は素晴らしい。皆さん疲れも忘れ堪能した。

(5)巨石の神々を訪ねる道。頂上の少し下に巨石の露頭がある。安土溶結凝灰岩である。上は赤紫で下に行くと黒っぽくなる。

(6)山麓に猪子山公園があり、小さな岩の岡がある。風化しており色々に見える。斑岩のようにも見える(図 2)。地質図の表示とは異なる。調査を継続したい。



図 2 猪子山公園の露頭と岩石(撮影 中村さん)。左写真は風化した露頭。猪子山との地質は違うかが今後の課題。右写真は採取した岩石。斑岩のようにみえる。

■2021 年 6 月の野外調査

○猪子山付近の調査 (参加者 4 人)

調査日時:2021 年 6 月 20 日(日)10:50 - 15:30 快晴、爽快。

調査地域:大津市石山の盛越川、三田川源流域

1. 調査の概要

梅澤が以前から調査している大津市・盛越山と三田川の源流域には注意して調査すると、花崗斑岩と、フェルサイト、細粒花崗岩が併存する岩脈、フェルサイトの新たな露頭、成因が不明な巨大な石英ブロックなどもあるようにも思えた。こうした物の確定をすべく、調査を進めた。詳細な調査、現場での討議もあり、収穫の多い調査となった。

2. 調査のポイント

(1)盛越川の上流に集合し、源流域の調査をすることで下記の知見を得た。

a. 既知の花崗斑岩の岩脈にはフェルサイトと細粒花崗岩が併存する場所がある。

b. 幾つかの見慣れない石を見つけた。

(2)盛越川から尾根を越えて三田川の源流域の調査をし、下記の知見を得た。

a. 三田川の源流域にはフェルサイトの露頭がある。また山道にはフェルサイトの岩片がある。三田川の源流域で細粒花崗岩の転石を見つけた。以上のことから三田川の源流域には火成岩があることを示唆する知見を得た。

b. 三田川の源流域には 5m を超す石英のブロックがある。またそこには古い坑道跡がある。この石英ブロックには地層が存在することからチャート由来の物と推定される。また古い坑道は石英の採取に使用されたものであると推定した。

c. 盛越川、三田川には断層が見られた。

■今後の予定

7 月 屋内活動 勉強会(担当 村上)

日時:7 月 25 日(日) 13:30~16:00 場所:琵琶湖博物館 実習室1

報告者:梅澤、テーマ:岩石の専門用語について

8、9 月 屋内活動 南郷の調査は水位低下する 8 月の午前中限定も考慮する。

11 月 八王子山調査 斉藤

12 月または 3 月 南郷の調査 北野

1、2 月 屋内活動



(6) 温故写新

【活動報告日の活動会員数(のべ) 0名】

グループ代表アドレス: hashi-onkosyasin@biwahaku.jp

グループ担当職員: 金尾 滋史

【活動報告】

■6月13日(日) おでかけ撮影会 in 石部

旧東海道の宿場町などを巡る撮影をする予定でしたが、残念ながら雨予報のため、中止となりました。

■7月11日(日) おでかけ撮影会 in 醒ヶ井・柏原

旧中山道の宿場町や街道を巡る撮影をする予定でしたが、残念ながら雨予報のため、中止となりました。これで3回連続の雨中止になってしまいました…誰の能力なのでしょうね…。

【活動予定】

■8月8日(日) おでかけ撮影会 in 醒ヶ井・柏原 10:30 JR 醒ヶ井駅集合



(7) 暮らしをつづる会

【活動報告日の活動会員数(のべ) 1名】

グループ代表アドレス: hashi-kurashi@biwahaku.jp

グループ担当職員: 大久保美香

【活動報告】 活動はありませんでした。

【活動予定】 未定です。



(8) 古琵琶湖発掘調査隊

【活動報告日の活動会員数(のべ) 5名】

グループ代表アドレス: hashi-hakkutsu@biwahaku.jp

グループ担当職員: 山川 千代美

【活動報告】

■粒度表作成のための土の採集

6月27日(日)10:00より野洲川(湖南市)にて活動を予定していましたが、前日までの雨で川の水位が上昇していた為、活動を延期しました。

■多賀の発掘現場の土から微小な化石を探す作業

① 日時: 7月 8日(木) 13:00~15:30 場所: 琵琶湖博物館 実習室1 参加者: 2名

② 日時: 7月 17日(土) 13:00~15:30 場所: 琵琶湖博物館 実習室1 参加者: 3名

活動内容: 多賀の発掘現場で採取した土を小割りしたり水洗したりしながら、微小な化石を探す作業をおこないました。

久しぶりの活動となり、今後の活動のあり方・進め方などについて話し合いながら、丁寧に作業をおこないました。



〔7月8日の活動の様子〕



〔7月17日の活動の様子〕

【活動予定】

■勉強会(8月か9月に実施する予定)

骨化石を理解するために、はしかけ「ほねほねくらぶ」さんと連携して、骨の構造や部位などの勉強会を開催する予定です。

■その他の活動予定については未定ですが、新型コロナウイルスの感染拡大の状況を見ながら、延期及び計画中の活動を随時おこなっていく予定です。



(9) ザ！ディスカバはしかけ

【活動報告日の活動会員数(のべ) 1名】

グループ代表アドレス: hashi-discov@biwahaku.jp

グループ担当職員: 田畑 諒一

【活動報告】

■7月7日(水) 季節の植物でアロマウォーターを作ろう(ディスカバでのイベントとしては中止)

昨今の情勢に配慮し、ディスカバでのイベントとしては中止としました。

主催のはしかけグループ員の方々、館内職員によるアロマウォーター抽出作業はしました。

【活動予定】

■9月9日(水) 季節の植物でアロマウォーターを作ろう

昨今の情勢次第で変更の可能性があります。

ディスカバリールームで「こんな楽しいことしたい！」などアイデア・提案があれば、お気軽に田畑・大槻まで声をかけてください。いつでもお待ちしております！

新しいメンバー也大募集中です。一緒に楽しい発見(ディスカバ)してみましょう！

また、ザ！ディスカバはしかけでは、定期的にイベントを開催しています。ぜひ、ご参加ください



(10) 里山の会

【活動報告日の活動会員数(のべ) 35名】

グループ代表アドレス: hashi-satoyama@biwahaku.jp

グループ担当職員: 美濃部諭子

【活動報告】

■6月11日(金) 潮干狩り

中止

■7月3日(土) 里山体験教室 下見 参加者18名

翌週7/11(日)の本番に向けての打合せと昆虫観察の下見、ハンモックづくりを行いました。

はしかけの森から少し歩いたところにある昆虫観察の場所にはトンボやバッタがいました。本番では子どもたちがどんな昆虫を見つけるのか楽しみです。昆虫観察の場所の下見を終えた後は、はしかけの森にもどり、下草刈りの打合せとハンモックの実演を行いました。本番で参加者へ教えられるように、ハンモックづくりが初めてのメンバーが経験豊富なはしかけメンバーから作り方を教わりました。難しそう…とと思っていましたが、やってみると簡単で参加者の方にも喜んでもらえそうだなと思いました。

今回は、里山体験教室の下見を終えた後、散策をしました。少し登ったところからの景色がとてもきれいでした。天気の良い日はさらに気持ちがよさそうです。



■ 7月11日(日) 里山体験教室 本番

一般申込者25名 会員17名 計42名

本番は天気予報では雨と雷の予報で前日まで開催できるかどうか心配していましたが、当日はたまたま青空が見えるときもあり活動中は雨も降らず午前も午後も楽しい体験教室になりました。

午前の昆虫観察ではトンボやバッタ、チョウ、カエル…といろいろな昆虫を捕まえて「これ何ー？」と興味津々に聞いていました。はしかけの森にもどるとどこからかタマムシが飛んできたのでみんなで観察しました。ほとんどの参加者がタマムシを見るのが初めてで感動していました。



午後は暑い中、下草刈りを頑張りました。大勢で作業をするとあっという間にきれいになり、これからも気持ちよく活動ができそうです。下草刈りを頑張った後はハンモックづくりでのんびりしました。子どもも大人もハンモックで気持ちよさそうにいました。

今回の参加者は虫が好きな子どもが多かったのでアンケートでも昆虫観察が好評でした。ハンモックづくりでは布とロープと木の枝でハンモックが簡単に作れることに驚いている方も多く、またぜひやってみたいという声もありました。里山体験教室を通して里山で学んだり楽しんだりしてもらえて何よりです。

【今後の活動予定】

- 8月21日(土) そうめん流し
- 9月11日(日) ハンモック虫干し



(11) 植物観察の会

【活動報告日の活動会員数(のべ) 0名】

グループ代表アドレス: hashi-shoku-kan@biwahaku.jp

グループ担当職員: 芦谷 美奈子

新型コロナウイルスの予防接種が進んできています。県や市町によって様々のようですが、少しでも安心して日常生活やはしかけの活動が出来るようになって欲しいです。今回も7月、8月の活動再開を迷ったのですが、メンバーの意見を聞きながら、両月とも「中止」としました。

【活動報告】

6月	日(日)	新型コロナウイルスの感染防止のため中止	参加者 0名
7月	日(日)	新型コロナウイルスの感染予防のため中止	参加者 0名

【今後の活動】

- 月に1回、第1日曜日の午後を予定しています。遠出の場合は、これに限らず、変則的になります。外部で行う観察会は、年に数回、みなさんにも呼びかけを行う予定(しばらくは、密を避けるため、行いません)です。このニューズレターを見て、直接現地へお越しください。基本的には、危険が無く雨でも歩ける所で、大雨や警報が出ない限り「行う」方向でいます。
 - 8月 新型コロナウイルスの感染防止のため中止
 - 9月 未定 水草観察④ 長浜市方面 (新型コロナの流行次第によっては中止)
 - 10月 未定 博物館周り、樹幹トレイルの観察(新型コロナの流行次第によっては中止)
- ※10月以降の計画は、集まれていないため、後日メール等で相談して決めます。

この活動に興味のある方は、メール(上記メールアドレス)にてご連絡ください(〇〇)/
当日、直接、実習室や現地へ来ていただいても結構です。



(12) たんさいぼうの会

【活動報告日の活動会員数(のべ) 22名】

グループ代表アドレス: hashi-keisou@biwahaku.jp

グループ担当職員 大塚 泰介(影の会長)

【活動報告】

日本珪藻学会第42回大会が6月12日(土)にオンラインで開催され、確認されただけで5名のたんさいぼうの会会員+影の会長が参加しました。今回も一人の会員が研究発表をしましたが、「たんさいぼうの会」名義での発表ではありませんでした。

たんさいぼうの会第67回総会を、7月18日(日)夜にオンラインで開催しました。会員13人(1人は懇親会からの参加)と影の会長の総勢14人で行われました。各自の活動報告の後、今後の活動方針を検討しました。新型コロナ感染の収束状況を見ながら「はじめてのたんさいぼう」「たんさいぼうの小さな旅」などの行事を徐々に再開していく方針ですが、未だ日程を確定できない状況です。終了後はいつもの如く、Zoom飲み会です。会員の疑問に影の会長が答えるような形で夜10時頃まで盛り上がりました。大学生会員の多くが前期試験や大学院入試を控えており、あまりゆっくりできなかったのが残念です。

会員を主著者とする論文が、珪藻学会誌 *Diatom* に受理されました。

Yoshida, K. & Ohtsuka, T. 2021. Diatom flora in indoor tanks breeding Japanese medaka, *Oryzias latipes*. *Diatom* **37** (in printing)
近畿地方を中心に、メダカを飼育している50の水槽の内壁上に付着する珪藻を調べ、62種の珪藻を報告しました。現在、ゲラ校正の段階まで進んでいます。次のニューズレターが発行される頃までには、ご希望の方にPDFをお渡しできるようになるでしょう。

藤ヶ鳴湿原の珪藻の論文は、6月末に投稿され、現在、査読結果待ちです。瀬田公園の珪藻の論文も同定作業と引用文献の整理まで完了し、写真プレートを組む段階まで進みましたが、現在そこで止まっています。そしてもう一つ、2018年に中国で新種記載されたばかりの珪藻が、この一年以内に西日本の互いに隔たった3河川からそれぞれ別の人によって発見され、影の会長のところに持ち込まれました。うち2名はたんさいぼうの会会員です。現在、影の会長が主著者となって、共著で緊急報告を執筆中です。どんな珪藻かはまだ秘密。

【活動予定】

新型コロナウイルス感染症がまだ収束せず、感染状況がステージⅡに下がっても間もなくステージⅢに戻るような状況なので、集まっての活動を計画することが難しい状態です。そこで、集まらなくてもできる活動を、それぞれに進めていきます。藤ヶ鳴湿原(岡山市)の珪藻に関する論文は、まもなく査読結果が返ってくると思われます。年末に発行される珪藻学会誌 *Diatom* への掲載を目指します。瀬田公園の珪藻についても、早期の原稿完成を目指します。他にも個人研究として、古琵琶湖層群蒲生層の古環境の研究、古琵琶湖層群甲賀層の化石珪藻の研究、愛知県の鈹質土壌湿地群の珪藻植生研究、曾根沼・野田沼(彦根市)の珪藻植生研究、千種川(兵庫県)の珪藻植生研究などを進めていきます。



(13) 田んぼの生きもの調査グループ

【活動報告日の活動会員数(のべ) 17名】

グループ代表アドレス: hashi-tambo@biwahaku.jp

グループ担当職員: 鈴木 隆仁

殆どの田んぼで中干しの時期にはいり、底の土があらわになっています。たくさんいたカイエビ類やミジンコ、オタマジャクシもすっかり姿を消しました。オタマジャクシはカエルになり、エビたちは卵に次世代を託して眠りにつきました。これから来年また田んぼに水が入るまで、卵は土の中で時を待ちます。今年の採集を終えた私たちは、集めたエビたちの同定作業に入ります。

【活動報告】

- ・5月16日:琵琶湖博物館において、採集瓶の準備などを行いました。
- ・5月18日:不安定な空模様の下、大津市見世、南志賀、大萱地区のカブトエビ生育調査を行いました。成熟個体がいれば採集の予定でしたが、見世、南志賀地区では小さな個体しか見つからなかったため、採集は断念しました。一方、大萱地区では、卵のうを持つアメリカカブトエビが見つかったため、1個体ずつ大きめの容器で田んぼの水とともに保管して持ち帰り、それらのエビを飼育して卵を集めました。
- ・5月22日:大津市千町四丁目でアメリカカブトエビ、赤尾町でアジアカブトエビを採集しました。どちらのカブトエビも、卵のうを持つ個体のみをその場で選別して持ち帰りました。これらのカブトエビも飼育して卵を集めました。
- ・5月25日:広域調査の一環として。今まで調査されていなかった日野町から旧蒲生町にかけての日野川沿いの田んぼでエビ類の調査を行いました。タマカイエビが多く観察され、カブトエビも1筆で見つかりました。日野町でのタマカイエビの記録は2002年以来2例目。旧蒲生町でのトゲカイエビの記録は初めて、旧蒲生町でのアメリカカブトエビの記録は2016年以来2例目と、実りの多い調査になりました。
- ・5月30日:アジアカブトエビの侵入調査として、大津市石山寺辺地区と赤尾町でカブトエビの採集を行いました。35枚の田んぼのそれぞれから、10個体以上を目安に採集しました。
- ・6月8日:大津市大江地区の6枚の水田において、2種のカブトエビの分布調査を行いました。また、産卵行動が盛んに観察された1筆において、卵のうをもつ個体を選別して持ち帰り、飼育して卵を集めました。得られた卵は乾燥させて保管し、発生実験に使用する予定です。



【活動予定】

夏休み期間に、採集した2種のカブトエビ、カイエビ類の同定作業を行います。また、カブトエビの卵を用いた発生実験の検討も行います。日程調整・連絡は、メールで行う予定です。

(石井 千津)



(14) タンポポ調査はしかけ

【活動報告日の活動会員数(のべ) 0名】

グループ代表アドレス: hashi-tanpopo@biwahaku.jp

グループ担当職員: 芦谷 美奈子

<「タンポポ調査・西日本2020」実施中・2021年5月まで延長>

「タンポポ調査はしかけ」は、「タンポポ調査・西日本2015」というタンポポの参加型広域調査に協力しながらタンポポについて学ぶことを目的にしているグループです。5年に1度2年にわたって実施される広域調査ですが、新型コロナウイルス対策により、本調査実施年に多くの行事が中止になりました。そのため、事務局では調査を2021年まで延長して実施することを決め、2021年3月から5月31日まで調査を実施しました。現在データ集計中です。

【活動報告】

なし。

【活動予定】

広域調査に合わせたグループであることから、今後活動の整理を進めており、グループとしては一度解散することも検討中です。2019年の調査の際に参加表明していただいたメンバーには、別途メールで今後の活動について伺う予定です。



【活動報告】

◆6月から、一般の方を迎えての活動が再開しました！

※今年度から、びわ博ホームページからのオンライン予約制となりました。

◆6月の活動 6/18(水) 午前の部 4組、午後の部 1組の参加でした。

梅雨ということで、一日中雨でしたが、久しぶりに開催できるちこあそで、メンバーもワクワクして参加の親子を迎え入れました。みなさん、カッパを着たり傘をさしたりしながら、畑に大豆の種をまき、ガチャコンポンプで水遊びをし、樹冠トレイルを歩いて琵琶湖へ叫び、工房の裏を探検しと盛りだくさんでした。子どもたちは、上から雨が降る中でも、ガチャコンポンプを動かし、水と遊ぶ姿が見られました。

◆7月の活動 7/21(水) 午前の部 4組、午後の部 3組の参加でした。

梅雨が明け、とっても暑いというか熱い一日でした。春に植えたジャガイモがそろそろ収穫時ということで、スコップで土を掘り返してみると、コロコロとジャガイモが出来ていました。それぞれが持ち帰って食べてみようとなりました。

ジャガイモ掘り以外は、ずーっと水遊び。ガチャコンポンプとホースを使って、好きなだけ水遊び。水が飛び散ろうと、子ども同士で水がかかろうと、気にすることもなく、ひたすら水遊びでした。熱中症になりそうな天気の中、水遊びで涼が取れる子ども達を、お母さんや私達大人はうらやましそうに眺めていました。好きなことを好きなだけできることって素晴らしい時間ですね。



6月 畑で大豆をまく



6月 カタツムリだよ



7月 水遊び



7月 ジャガイモ収穫

※ちこあそは、生活実験工房周辺の展示空間の自然で活動しています。屋外活動ですので、感染のリスクは低いのですが、幼児がマスクをしたり、子ども同士の触れ合いを避けたりすることは難しいことを理解いたいて、大人は三密を避け、また社会的な理解を得ながら活動できるように実施しています。

WEBで、活動の様子を時々掲載しています。http://blog.goo.ne.jp/eco-macha をご覧ください。

【今後の活動予定】 びわ博ホームページで2か月前から参加予約ができます。

活動月	実施日、時間	タイトル	内容
8月	8月はお休みです		※毎月おおよそ第3水曜日に行っています。
9月	9月15日(水) 10:00-14:00 第3水曜日です	ちこあそ9月	コロナ禍のため実施についてはその都度判断します。 ループでの自然観察、森の探検、ガチャコンポンプの水遊びなど やさしい自然遊びを子どもや保護者の方とゆっくり、ボチボチ過ごします。

はしかけの新しいメンバーも飛び入りも大募集中です。一緒に子ども達と遊びましょう！



(16) 琵琶湖の小さな生き物を観察する会 【活動報告日の活動会員数(のべ) 0名】

グループ代表アドレス: hashi-bck@biwahaku.jp

グループ担当職員: 大塚 泰介

【活動報告】

■ 6月、7月は新型コロナウイルスの感染拡大を考慮し、観察会は行いませんでした。

【活動予定】

琵琶湖の小さな生き物を観察する会では月に1回、観察会を行っています。見学・参加希望の方はグループ代表アドレスまでお問い合わせください。



(17) びわたん 【活動報告日の活動会員数(のべ) 0名】

グループ代表アドレス: hashi-biwatan@biwahaku.jp

グループ担当職員: 安達克紀・由良嘉基

【活動報告】

蝉の声に暑さもひとしおの今日この頃でございますが、いかがお過ごしでしょうか。
昨年度よりわくわく探検隊の実施について、度々検討しておりますが、本年度のわくわく探検隊は、11月からの実施とさせていただきます。申し訳ありませんが、ご理解の程、よろしくお願い申し上げます。
ますますの酷暑にお身体を崩されませぬよう、どうかご自愛専一にお過ごしください。



(18) ほねほねくらぶ 【活動報告日の活動会員数(のべ) 20名】

グループ代表アドレス: hashi-hone-hone@biwahaku.jp

グループ担当職員: 松岡由子・中川信次

【活動報告】

■ 5月30日(日) 参加者: 3名

鳥の骨のクリーニング、キツネの組み立て、を行いました。

■ 6月5日(土) 参加者: 3名

ネコの徐肉、オオバンの解剖、キジバトの解剖を行いました。

この日は、いつもの活動とは少し違い、全国にある標本制作グループや個人が、各々、標本制作を行いつつWEB上で交流をするという、WEB交流会に縁あって参加させていただきました。

興味深い話がたくさん聞けて大変勉強になり、今後の活動のモチベーションになるような貴重な機会となりました。

■ 6月13日(日) 参加者: 5名

イタチの解剖、オオバンの解剖、鳥の徐肉、キツネの組み立てを行いました。

■ 6月26日(土) 参加者: 3名

タヌキの徐肉、イタチの徐肉を行いました。

■ 7月11日(日) 参加者: 4名

タヌキの徐肉、イタチの徐肉、キツネの組み立てを行いました。



解剖中のオオバンのスケッチです。

■ 7月 22日(木) 参加者: 2名

シロハラの本剥製、仮剥製の制作を行いました。

この日は、博物館の大人のディスカバリールーム内にあるオープンラボを使用させていただいての活動で、今までは、あまり制作した事のなかった鳥の本剥製の制作に始めて挑戦してみました。

初めての制作だったので、まだ制作の手順が完全には頭に入っていなかったため、資料を見ながら工程を一つ一つ慎重に行いました。

新しいことに取り組むときは、不安が大きいです。慣れ親しんだ作業を足掛かりに未経験な物事にチャレンジしていくのは、程良い緊張感があり集中して活動ができたように思います。

また、オープンラボを使用させていただいての活動だったため、来館者の方々から質問をいただいたり、活動の様子に興味を持って見ていただけたので程良い高揚感をもって作業できました。自分たちが興味を持って行っていることに、興味を示していただけるというのは大変うれしいものです。

今後もオープンラボを使用する活動の機会を増やしていければと思います。



オープンラボ内での活動の様子です。

【活動予定】

- ・7月31日の13:00～16:00に博物館での活動を予定しております。
- ・8月、9月の活動予定日は現在未定ですが、月に2、3回2～3時間程度の活動を予定しております。



(19) 緑のくすり箱

【活動報告日の活動会員数(のべ) 34名】

グループ代表アドレス: hashi-midori-k@biwahaku.jp

グループ担当職員: 大槻 達郎

【活動報告】

■6月27日(日) 参加者: 14名

活動内容: ハーブの勉強会とこんにやく湿布(生活実験工房にて開催)

午前中はハーブの勉強会を開きました。基本的なハーブの知識について、初心者のメンバーも、よく熟知しているメンバーも勉強し、一緒に学びを深めました。

今回講師となってくださった担当のメンバーの方が何種類ものドライハーブ、フレッシュハーブをそろえて下さったので、ひとつひとつ手に取りながら、知識を交流しました。ハーブの香りや効能、ハーブの育て方やハーブティーにした場合の合わせ方など、もっとハーブを生活に取り入れたいと思う内容でした。

午後からは、毎年恒例のこんにやく湿布を行いました。こんにやくをぐらぐらと十分に温め、タオルに包み、体の気になる部分にビワの葉を敷いてから、当てていきます。ほとんどのメンバーが気持ちよくて、寝てしまっていました。

【感想】

- ・ハーブのブレンドについて、様々な薬効があること、日々の生活に楽しみながら、取り入れていくことの大切さを学び、勉強になりました。
- ・こんにやくとビワの葉湿布は、想像していた以上に気持ち良かったです。こんにやくの絶妙な柔らかさと、保温性、冬場に体を温めるのにもよさそうと思いました。
- ・自然がもたらすハーブを日常に取り込み、健やかな暮らしにつなげていけたら、素敵です。
- ・こんにやく湿布は自宅でも行い、こんにやくがだいぶ小さくなりました。



ハーブの勉強会



こんにやく湿布

■7月7日(水) 参加者: 10名

活動内容: 季節の植物でアロマウォーターを作ろう(夏)(生活実験工房にて開催)

ディスカバリールームの植物の香りの展示用として、琵琶湖博物館で年4回開催している「季節の植物でアロマウォーターを作ろう」のイベントです。

今回は、和ハッカ、笹、ヒノキを蒸留しました。

残念ながら今回はコロナウィルスの感染予防のため、一般の参加は中止となりました。

当日は雨が強い中、湖畔に自生している和ハッカの採取を行いました。

花はつぼみの状態でした。香りはとても良かったです。



和ハッカの採取

今回の蒸留は、香りの弱いと思われる順に、笹、和ハッカ、ヒノキ(葉)と蒸留をしていきましたが、まず笹を蒸留した時点で、香りが少しおかしいことに気が付き、前回蒸留したクスノキの香りが混ざってしまったようでした。蒸留器はしっかり洗ったはずなのに、冷却器の部分に香りが残ってしまっていて(おそらく冷やされて固まった)、笹、和ハッカの蒸留水が原材料と違う香りになってしまいました。

冷却器の部分は、エタノールやお湯を通して何回か洗ったら、だいぶクスノキの香りがなくなりました。改めてクスノキの香りの強さに驚きました。

和ハッカは、お鍋を使った簡単な鍋蓋式蒸留器でも蒸留していたので、そちらはしっかりとハッカのメントールの香りになり、次回のマスクスプレー作りに利用することにしました。



アランビック蒸留器

【感想】

- ・笹、ハッカ、ヒノキと盛りだくさんの蒸留でした。前回のクスノキの香り残り、残念でしたが、あらためて樟脳(カンファー)の力はすごいと思いました。
- ・笹やハッカは前回の蒸留のクスノキと混ざってしまいましたが、ヒノキはさほど気にならない甘い香りでした。ヒノキの蒸留の時に、成分が服につき、黄色く染まってしまいました。ヒノキは染料にもなりそうですね。
- ・お鍋の蒸留した和ハッカは、かなり濃い成分で香りが強烈でした。
- ・皆さんと夢中で実験するのが本当に楽しかったです。
- ・貴重な和ハッカが湖岸に無造作に生えているとは驚きでした。また採取の道中、咲いていた綺麗な花が実は外来種で、やっかいものであることを教えて頂きました。
- ・和ハッカは昨年に引き続き、2回目ですが、今年の香りのほうが強かったように思います。琵琶湖博物館の周りに自生しているなんてびっくりしました。
- ・笹はちょうど七夕だったので蒸留してみて、笹の香りがしたとの声に納得しました。
- ・ヒノキの葉の蒸留はヒノキ風呂の香りを想像していたのですが、甘い香りになり、意外でした。またヒノキの木材でもやってみたいです。



鍋蓋式の蒸留器

■7月7日(水) 参加者: 10名

活動内容: マスクスプレー、アロマストーン、バスボム作り(実習室2にて開催)

今回は、アロマテラピーで使用される精油(エッセンシャルオイル)を使ったクラフト、マスクスプレー、アロマストーン、バスボムを作りました。

午前中、マスクスプレーとアロマストーンを作りました。

精油は、ティートリー、ユーカリ・ラディアータ、ベルガモット、ラベンダー、レモン、それと前回の活動で蒸留した和ハッカの蒸留水を準備しました。

基本のアロマスプレーの作り方と、精油の効能などを確認した後、香りを確かめながら、アロマスプレーを作っていました。和ハッカの蒸留水は香りが強く、精油を入れても和ハッカの香りが中心にくるスプレーになってしまいました。精製水も準備していたので、いろいろなブレンドを考えて



マスクスプレー作り

マスクスプレーを作りました。

アロマストーンは石膏を水で溶いて、シリコン型に流し入れたら、すぐできるもので、簡単でかわいい、おしゃれだと好評でした。

午後からはバスボムを作りました。基本は重曹 50g、クエン酸 40g、自然塩 40gを混ぜて、ラップで丸めてできる簡単なバスボムです。

作り方を説明しながら完成したバスボムは、一度たらいにお湯をはって、バスボムを入れる前のお湯の状態と、入れた後のお湯の状態を手で触ってもらい、お湯がとてまろやかになっていることを感じてもらいました。

基本のバスボムの材料に、クレイやハーブパウダーで色を付けたり、自分の好きな香りの精油やドライハーブや押し花などを入れて、素敵なバスボムが出来ました。



手作りのアロマストーン

【感想】

- ・今日の研究も大変面白かったです。自然が作った産物から創る面白さ。味覚などと違い1+1が単純に2にならない嗅覚の不思議さ。大変勉強になりました。
- ・盛りだくさんの一日でとても楽しかったです。販売されているものも、自分で作れること、また作ってみたいと思いました。
- ・バスボムはラベンダーの香りで作り、とてもリラックスできて、よく眠れました。アロマストーンは初めて作りましたが、家に帰ってかばんから出した途端、とてもいい香りでした。簡単に作れるし、お気に入りです。車用、トイレ用、犬小屋用、色々作ってみたいです。
- ・マスクスプレーは長時間マスクをするときは、気持ちがさわやかになり、いいですね。皆さん、それぞれ素敵な香りのスプレーが出来ました。
- ・アロマストーンは手軽なのに素敵な作品が出来て楽しかったです。バスボムは固め方がなかなかうまくできなかったのもので、次はコップで固めてみようと思います。お風呂に入れてやわらかなお湯と香りに癒されながら、幸せな気分になりました。
- ・今日はアロマの効能など知ることが出来て、大変勉強になりました。精油の組み合わせなど、奥の深さを感じました。バスボムはお湯のまろやかさにびっくりしました。手まり寿司のような可愛いバスボムができて感激です。



バスボムの発砲の様子

【活動予定】

・8月19日(木) 10:00 草木染め 場所:実習室2(担当打ち合わせ 8/8(日)に実習室2で実施)



(20) 虫架け

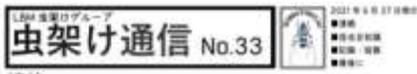
【活動報告日の活動会員数(のべ) 0 名】

グループ代表アドレス: hashi-mushikake@biwahaku.jp

グループ担当職員: 八尋 克郎

【活動報告】

■先月に引き続き一堂に会しての活動はできませんでしたが、「虫架け通信」を発行し会員同士の交流をはかりました。



記録・短報

山形：5月3日、学芸員の大塚さんと高田さんと一緒に福井県高田市の和田池畔に行ってきました。その際に採集した甲虫を以下に報告させていただきます。(5科5種)

コメシロムシ科
 ハマヘオオヒメツグムシ 1種
 アガリコヒメツグムシ 2種
 コメシロムシ科
 コメシロムシ 1種
 コメシロムシ 1種
 オオメシロムシ 1種
 キマダラヒメツグムシ 1種
 コメシロムシ科
 ツマギロヒメツグムシ 1種
 ハムシ科
 ツマギロヒメツグムシ 1種

連絡
 今回の虫架け活動についての報告が送られました。皆様、厚紙での活動については指定されたメンバーの連絡が、虫架けは十分な連絡を取り、活動で連絡することはありません。また、指定されたメンバーの連絡が、虫架けの連絡は指定されたメンバーが担当させていただきます。虫架けの連絡は指定されたメンバーが担当させていただきます。虫架けの連絡は指定されたメンバーが担当させていただきます。

連絡
 今回の虫架け活動は予定通りです。虫架けの連絡は指定されたメンバーが担当させていただきます。虫架けの連絡は指定されたメンバーが担当させていただきます。虫架けの連絡は指定されたメンバーが担当させていただきます。

昆虫豆知識
 高田池の山形県立自然史博物館の甲虫展「虫架け」開催中。高田池の山形県立自然史博物館の甲虫展「虫架け」開催中。高田池の山形県立自然史博物館の甲虫展「虫架け」開催中。高田池の山形県立自然史博物館の甲虫展「虫架け」開催中。

昆虫豆知識
 今回の虫架け活動は予定通りです。虫架けの連絡は指定されたメンバーが担当させていただきます。虫架けの連絡は指定されたメンバーが担当させていただきます。虫架けの連絡は指定されたメンバーが担当させていただきます。



記録・短報
 山形：5月3日、学芸員の大塚さんと高田さんと一緒に福井県高田市の和田池畔に行ってきました。その際に採集した甲虫を以下に報告させていただきます。(5科5種)



最後に
 今回の虫架け活動は予定通りです。虫架けの連絡は指定されたメンバーが担当させていただきます。虫架けの連絡は指定されたメンバーが担当させていただきます。虫架けの連絡は指定されたメンバーが担当させていただきます。

【活動予定】

- ・新型コロナウイルスの影響で予定が不透明ですが、可能であれば1か月に1回程度の野外調査や室内勉強会を行いたいと考えています。
- ・昼夜問わず観察・採集などをして、滋賀県内の分布調査をしています。
- ※都合により、新規会員の募集は当面見合わせております。(文責: 梶田)



(21) 森人(もりひと)

【活動報告日の活動会員数(のべ) 6 名】

グループ代表アドレス: hashi-morihito@biwahaku.jp

グループ担当職員: 林 竜馬

【活動報告】

■新型コロナ感染症への対応として5月及び6月の活動は休止した。

■7月10日(土)10:00~12:00 参加者:(会員)6名 (博物館職員)林

内容:琵琶湖博物館の職員駐車場~南西側歩道~太古の森~生態観察池の周辺~樹冠トレイルを散策した。駐車場横のメタセコイアは球果の成長と葉先に来年の雄花の芽ができて始めていた。ヤブマオ、ギシギシとナンキンハゼの花やシイノキ、マテバシイの実を見ながら通称ザリガニ池に向かう。オニグルミの実が大きくなっている。ハンカチノキは今年、花が咲かなかったのか実が見当たらない。2年前に見つけたメタセコイアの実生(推定樹齢7~8年)は順調に生育中で太古の森では新たに芽生えたとばかりのものも数株見つかった。



メタセコイア
(推定樹齢 7~8年)



タセコイア (1年)

太古の森ではキツタ類、チヂミザサが林床を覆い、ササも広がっているので除去作業が必要である。コウヨウザンのキカラスウリも規模は縮小したが依然として花を咲かせている。



キツタ類



チヂミザサ

樹冠トレイルでは昨年12月につる植物を除去した効果で低木の樹冠を覆っていたつる植物がほぼなくなった。比較的大きなアカメガシワが枯死した。植樹した樹木はトレイル入り口のアカガシ一本の成長が悪いが他は問題なさそうである。メタセコイアやカツラの実生は順調に生育していた。生態観察池では池の中の枯れ枝で珍しくスッポンが甲羅干しをしていた。



スッポン

【今後の予定】

新型コロナウイルス感染症の状況や熱中症予防を勘案して検討する。

■7月24日(土) 検討中

■8月11日(土)、8月25日(土) 検討中

以上



(22) 琵琶湖梁山泊

【活動報告日の活動会員数(のべ) - 名】

グループ代表アドレス: hashi-ryozanpaku@biwahaku.jp

グループ担当職員: 中井 克樹

【活動報告】

コロナ禍のもと、なかなか活動ができないなか、5月に実施した Zoom 集会の後、高校2年生の新メンバーが加わりました。今後の活躍に期待しています。

【活動予定】

科学部のメンバーをはじめとする高校生がグループの主な構成員であり、新型コロナウイルス感染拡大を防ぐために配慮をしながら、それぞれの学校での活動を進めている状況です。博物館としては、これまでと同様、各学校での対応に従いながら、質問や調べものがあればメールなどで気軽に博物館を使ってくれればと考えています。



SALON DE 湖流
LAKU MIZU SALON

(23) サロン de 湖流

【活動報告日の活動会員数(のべ) 4名】

グループ代表アドレス: hashi-salondekoryu@biwahaku.jp

グループ担当職員: 戸田 孝

【活動報告】

■ 6月12日(土) ギャラリー展示に向けての検討会

場所: メーリングリストでの議論

参加者: 3名 (はしかけ2名 学芸員1名)

このグループの活動に関連するギャラリー展示 12月18日(土)～3月6日(日)に向けて、担当学芸員が展示で表現しようと考えている「環流形成のメカニズム」「プランクトンの鉛直運動」の概略を示し、意見を求めました。

なお、この日の午後に琵琶湖博物館に来訪できるメンバーがあれば実習室で待っていることも伝えましたが、参加はありませんでした。

■ 7月10日(土) ギャラリー展示に向けての検討会

場所: メーリングリストでの議論

参加者: 3名 (はしかけ2名 学芸員1名)

担当学芸員が6月末に行った学会発表の内容に基づいて「琵琶湖の深呼吸」「埋立水の行方」「琵琶湖の津波」「琵琶湖の虹」の4つの内容に関する展示案を示し、意見を求めました。

なお、この日は「びわ湖の日」40周年記念シンポジウムのため琵琶湖博物館内の場所が確保できなかったため、夕方に Zoom 会議を計画しましたが、メンバーの都合がつかせませんでした。

【活動予定】

原則として毎月第二土曜の午後に会合を持つ方針は従来通りですが、オンラインでの開催も積極的に進めて行こうと考えています。



【活動報告】

■ 4月28日(水) 9:20-12:30 参加者5名

①活動場所: 守山市

②調査目的:

守山市立埋蔵文化センターを訪問し、新放水路工事中に発見された「服部遺跡」の話を含め、新旧野洲川についての地域の文化について講義を岩崎所長よりお聞きした後、守山市服部町周辺の南・北産土神社を訪問し「水と暮らし」の名残りを調査した。

③調査詳細:

A 講義内容要約として

当地の役割として、まず近江の国野洲郡が古くから大嘗祭のお世話の中心であった。大嘗祭は毎年行われる新嘗祭で新しい天皇が即位された年のみに行われており、9世紀から明治まで1000年間続けて悠紀国が担当した。その多くは近江で執り行われ、888年から令和まで77回の内、近江で55回、野洲で11回を数える。

「よろつよを 三上の山の ひくくには やす河の水 すえにそあひにける」(冷泉天皇の大嘗祭で詠われた風俗歌と言われている) このことは野洲川は有史以来多くの水害で民を苦しめてきたが、野洲郡はその野洲川のお陰で国内有数の穀倉地帯として、ポテンシャルが高く、都に近い大国として栄えて来たことにも通じている。また、藤原武智磨呂伝(むちまろ伝)にも「その田は上の上なり 水早の災いありと言えども かつて不獲の憂えなし」とあり奈良時代に既に明治時代の半分の耕作田があったと言われている。

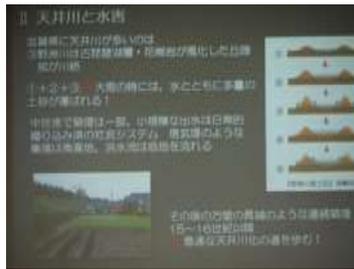
服部遺跡は、昭和49年頃野洲川改修工事の最中に地元の小学生が採取した弥生土器が発端となり発見された。遠賀川式土器は米作り地帯共通の土器であること、しかも今の新河川底2.5~3mの深さに4層の生活面が残っている事が判明した。最下層には弥生前期の水田跡、その上層に弥生中期~後期の竪穴住居跡 更に古墳時代集落跡があり、当時耕作地であった地表面のすぐ下には奈良から平安時代・鎌倉時代以降の遺構も検出されている。奈良時代の古銭や銅印も見つかっており、服部郷が古くから野洲川下流域の中心として耕作が営まれ、条里の中心として栄えていた姿を残していることがわかる遺跡である。

◆服部遺跡で思うこととして、4層の生活面が重なりあっていることが、より興味深いことである。年代を超え、同じ地に同じ生活を過去を知らず日々と続けていたことに驚嘆する次第である。それだけこの地が生活に適した地であった証左でもある。また、此の地が大嘗祭の回数が一番多いことは、昔の都、奈良、京都からも近かったこともあろうが、気候的にも恵まれ、安心して祭りが行われる場所であったのではないかとと思われる。

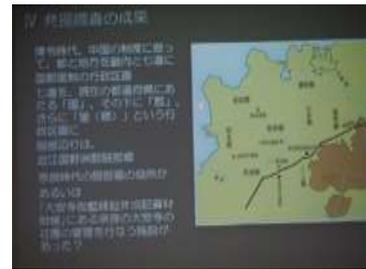
□講義風景①



□講義風景②



□講義風景③



さらに、戦後、日本では川の治水目的及び耕作地増強のための、太田川、狩野川、関谷分水路、豊川、野洲川の五大排水工事が行なれたわけであるが、賛否両論で地域住民の確執が多々あったことであろう。今ほどの環境に対するアセスメントもなく、各地で工事が実施されたことも想像できる。今回も講義の中で、新放水路建設にあたり、新放水路となるべき地域の住民が先祖伝来の屋敷と農地を失うことになり 反対運動はおこったが、最終的には地域の永遠の安泰と繁栄を祈念して、笠原地区に神社とお寺と共に集団移転されたというお話もあった。

B服部郷の由来

服部町の北産土神社、南産土神社は天孫をお祀りしている。神代史で最も重要な意味を持つ「天孫降臨」の天孫とは、天照大神の孫のことで、降臨とは天上の神が地上に降臨することである。来臨した神を産土神として勧請した。

a 服部郷が古墳時代後期から中世に入る頃、荘園制度以後、兵主郷と名称が自然改称されたのであるが、服部の町名は古代の服飾業を職とした集団に由来する。この地に服部遺跡があり、奈良時代の生活跡から糸巻きが出土している。奈良時代には野洲郡に服部郷があった記録もあり、その範囲は中州区域を中心に広がっていたと推定される。また、昭和30年頃までは蚕を飼っていたときに使われた蚕棚などが残されていた。

b ここは茶の生産地でもあり、近江源氏に関する書物には天文 14 年(1545 年)に「津田荘に茶を栽へしむ。是より国用と為る」と記されており、明治期には紅茶の名産地として知られたと言われている。

c 湖辺の土は灰汁(あく)なくして水に泥なし、また茶によく合へり、とあることは、ずばり服部郷を指向しているのである。

茶の生産は山の南面傾斜地に比較的多く暖地が要求されるが、服部、乙窪のような平地の生産地は少ない。野洲川流域の産地では甲賀の産地大野茶があるが、灰汁なくして茶によく合へりと認められているのは、服部と乙窪である。

d 服部はハトリベで絹織物の部の称である。

e 南産土(みなみうぶすな)神社 守山市服部町 県道幸津川服部線付近

f 北産土神社 守山市服部町 集落内 傳光院の隣

両産土神社二社は自然堤防に立つ野洲川の鎮めの社である。

服部町の旧北流左岸に細長い丘状の自然堤防が残っている。自然堤防は、天井川ができる条件の一つである。洪水の際に河川により運ばれた土砂が流路沿いや周辺に堆積してできる。この堤防の下流側端部に建てられている。

□北産土神社鳥居



□北産土神社勧請吊り



□南産土神社鳥居



■ 5月27日(木) 9:45-11:30 参加者:6名

①活動場所: 守山市

②調査目的:

旧野洲川南流域、守山市小島町阿比留地区と小島町の宅地内に張り巡らされてきれいな水が流れる水路・カワト等の現状を見学し、古人の生活の知恵の継承を見た。今回のガイドは認定 NPO 法人びわこ豊穰の郷の倉島さんをお願いした。同法人は守山市と共同で「守山の水辺百選」を編集発行されて活躍されている。

③ 調査詳細

a 地区全体の様子

小島町阿比留地区は直ぐ周辺に新興住宅街が広がって来ており、その先には水田が広がっている。前回訪問した鳩の森公園とも隣接するところである。新興住宅街とは異なり、地区内道路が極端に狭く、大型車の進入は難しいように思われる旧来型の集落形態が残っている。各宅地に沿って路地に近い道路が網の目に走り、宅地や道路に沿って狭い所では巾 30cm 程度から、広くても 100cm 巾程度の水路が張り巡らされ、きれいに澄んだ水が豊富にながれている。この水は昔は上流の野洲川南流付近から自然に湧出した水が流れ込んでいたが、現在のその湧出地点が旭化成株の工場内に組み込まれたため、工場でポンプアップされて生産工程の冷却水として利用された水を管理下のもとで水路に流されているとの事である。

b 水路の様子

水路にはゴミひとつなく、道路沿いだけでなく、各宅地境界にも隈なく張り巡らされ 内・外カワトや花崗岩のくり抜き加工で流し風加工されたものを橋渡して利用されていた名残も残っている。水量が豊富で水路は直角に曲がって方向を変えている箇所も多く見られるが、そこで溢れかえるような兆候はなかった。冷却水利用後の排水ということなのか、管理が十分になされているからなのか、ごみの混入も全くない、少し無機質的な感触も抱かされた。地区の中央付近のお宅の庭に背の高い立派な欄干が植わっており、昔の濾過等に使われていたのかなあとロマンに浸る気持ちも少しばかり……

c 小島天満宮と里中川

1326 年児島高德氏の造営で菅原道真が主祭神。一帯を小島城と呼んだ時代もあったが、江戸以降は城の役目も終わり地区の神域として伝わっている。前を流れる里中川は先の阿比留地区の水路とは別。当日も降水のためか少し濁っていた。付近の道路脇の畑(田?)は当日の降水で水没状態も見られた。

□小島町阿比留地区内の水路①



□小島町阿比留地区内の水路②



□小島町阿比留地区内の水路③



■ 6月25日(金)10:00-13:30 参加者 6名

①活動場所: 甲賀市土山町大河原ならびに青土地区 (野洲川上流域)

②調査目的: 野洲川上流 甲賀市土山町にある野洲川ダムと青土ダムを見学した。野洲川ダムでは野洲川土地改良区の中島氏と村田氏からダムの建設までの経緯、管理状況の現地説明を受け、野洲川上流域の現状の把握ができた。加えて若宮神社(再訪問)、青土(おうづち)ダム、加茂神社と2ヶ所の湧水調査も行った。

③調査詳細:

a 野洲川ダムと青土ダムの現地見学

野洲川最上流部にあり、流域面積 32.5 km²で農業用利水を目的にしたダムである。昭和 14 年から工事が始まり、戦時中の工事中断を経て昭和 26 年に完成、その後、平成 13 年から 21 年の改修工事完成で、ほぼ現在の形で管理されるようになった。

ダム建設時に埋没する民家はなかったとのことである。源流は、鈴鹿スカイラインが通っている鈴鹿山系の武平峠付近が分水嶺で、鈴鹿山系の西面部と雨乞岳の南面部への降水が急峻な沢部を流れ、野洲川の源流となっている。現在は下流側に昭和 62 年に完成した多目的ダムである青土ダムと連携管理しながら流域全体の水量管理がなされている。

野洲川ダムは 湧水に対応するための水源確保を目的とした農業用ダムで農林水産省が所管、管理者は流域 5 市、管理受託者は非営利団体 野洲川土地改良区(愛称 水土里ネット野洲川)である。一方、下流側の青土ダムは、洪水被害の軽減と河川の流水維持等の確保、甲賀市への水道用水の供給、湖南工業団地への工業用水供給のために建設された多目的ダムであり、その性格は異なるものの、お互い野洲川上流部の上下流に隣接していることもあって相互の連携管理で運営されている。現在管理は遠隔操作が基本で、リアルタイムに計測される種々の数値を甲賀市水口町にある水土里ネット野洲川事務所で一括管理されている。現地見学で例年今頃は貯水水位が相当低くなっている時期であるが、今年の貯水量は梅雨入り早期で降雨量が多かった。そのため現在ダム下の放流ゲートを半分程度開いた状態でも満水状態にあり、オーバーフローさせながら放流しているとの事であった。

かつて暴れ川と呼ばれていた時期もある野洲川の流量管理が最上流の野洲川ダムと青土ダム、中流域の幹線導水路網、分木工、佐山・思川・水口・石部の頭首工、揚水設備等の組み合わせで運営されている。今回はその一部を現地調査で確認することができた。

□野洲川ダム管理棟



□野洲川ダム出水路



□青土ダム出水口



b 若宮神社の勧請吊り 甲賀市土山町大河原

再訪問(2018.1)、今回は立派な勧請吊りが鳥居奥の杉に掛けられていた。太い縄で左右対の杉の根元に蛇の頭と尻尾が垂れ下がっている。隣接する大杉の根元と、鳥居の柱にもしめ縄風の飾りが巻かれていた。さらに 前回は気づかなかったが、手水場所の右手奥に「御神水」の石碑があり付近に地中から湧き出していた跡の石積みと、その神水を溜めていた石堤が残っていた。ここからは推論の世界となるが、野洲川ダム建設で上流部の水がせき止められたことで、水源が枯れ、湧出しなくなったのかもしれない。

c 加茂神社 甲賀市土山町青土

青土地区は室町時代に新たに開拓された地域であるが、同地域の守り神を祀る「加茂神社」を訪問し、中世の時代感を味った。社殿正面の大きな椎の木にしめ縄風の勧請吊りが飾られている。大永 6 年(1526 年)に飯塚安斎入道が山城国加茂から来て開村したとのこと、天津彦火瓊々杵命(あまつひこほこにきのみこと)、玉依姫命、別雷神が祀られているとあった。

- d 野洲川ダム下部の谷面よりの場所で湧水場所があり従来の水質調査を行った。
- e 青土ダム管理棟付近の崖部の道路脇に湧水場所があり従来の水質調査を行った。

□若宮神社の勧請吊り



□若杉神社御神水



□加茂神社本殿



【活動予定】

・7月22日(木) 野洲川水系調査予定(祇王井川流路周辺)

(本稿の執筆者:小篠)



(25) 海浜植物守りたい

【活動報告日の活動会員数(のべ) 40名】

グループ代表アドレス: hashi-kaihin@biwahaku.jp

グループ担当職員: 大槻 達郎

【活動報告】

*2021年5月11日(火) 10時00分~14時30分

天気:晴 気温:22°C 参加者:2名

観察状況:新海浜はコロナ過のため駐車場が閉鎖につき、①佐波江浜 ②マイアミ浜 ③新海浜を最寄りの自治会館に駐車して巡回観察を行う。

①佐波江浜

- * タチスズシロソウ: 思いの外、たくさん咲いていた。波打ち際から約7mの所に10か所ほど筋になって点在していた。昨年発芽したと思われる小さな株が多い。大部分は種をつけているが小さな株は種をつけていない。
- * ハマゴウ: 保護区の中はチガヤでおおわれ、その中で3株新芽を出しているのが確認できた。
- * ハマヒルガオ: 浜に葉が広がってはいるが、以前より少ないように思われる。咲き始めて蕾も多く見られた。

②マイアミ浜

- * タチスズシロソウ: ここは以前より多く確認できた。北側のソテツの木から北の端まで点在していた。芝生の中や浜には一年草が多く筋になって点在していた。テニスコートの中はなかったが、コートまわりの網の外には株の大きいのも見られた。ここも種をつけているものが大半。
- * ハマゴウ: 昨年と同じ木に新芽が見られた。
- * ハマヒルガオ: テニスコート北側が整地されているためなくなっていたが、北側の隅には群生していた。以前あった北側の花壇の中も見当たらなかった。全体として以前より少ない。花はピンクが濃くはっきりしている。

③新海浜

- * ハマエンドウ: 日当たりの良い真ん中あたりの花は盛りを過ぎて葉が黄色くなっている。松の木の下や入口辺りは花もたくさん見られて葉も生き生きしている。種の鞘も3箇所程度見られた。鞘にアブラムシが付いているのが1箇所あった。チガヤも新芽を出しているが昨年の作業成果か今年は少ないように思われる。
- * ハマゴウ: ほとんどの枝から新芽が出て、浜に広がり始めた。浜から立ち上がった枝は葉っぱが広がっている。まだ、昨年の種をつけている枝が多い。
- * ハマヒルガオ: ところどころ葉が黄色くなっているがつぼみがたくさん見られる。昨年と比べると少ないように思われる。マイアミ浜と比べると花の色は淡いピンクで薄く葉も小さい。
- * ネナシカズラ: ①昨年発生場所に発生していたのが1箇所。②今年発生した場所が1箇所。合計2箇所。ハマヒルガオ等に巻き付いているのが約30本(昨年の種が芽を出しかけている?)巻き付いたハマヒルガオやカラヨモギを根こそぎ抜いて焼却処分した。

① 佐波江浜



②マイアミ浜



③新海浜



【活動報告】

* 2021年5月18日(火) 9時30分～12時00分

天気:曇り 気温:21℃ 参加者:4名

観察状況:新海浜:コロナ禍でいつもの駐車場が閉鎖のため、最寄りのコンファレンスセンター駐車場を宇野さんから使用承諾を得て頂き、車を止めさせてもらう。梅雨の曇り空の下での作業。時々日差しあり蒸し暑い。コマツヨイグサやコバンソウが繁茂。

活動内容:①保護区内で雑草駆除(コマツヨイグサ、コバンソウ等)
②アメリカネナシカズラの駆除。

海浜植物

* ハマエンドウ:花は盛りを過ぎ、鞘があちこちで見られる。

* ハマゴウ:葉が大きくなり、浜側に広がっている。

* ハマヒルガオ:今が盛りと可愛い花が咲き誇っている

(参考)滋賀県の「滋賀県で大切にすべき野生生物 滋賀県レッドデータブック 2020年版」が刊行されました。ハマエンドウは「絶滅危惧種」のままです。(宇野さん情報)

【活動報告】

* 2021年5月28日(金) 9時30分～11時40分

天気:晴れ 気温:23℃ 参加者:6名

観察状況:新海浜:波は静か。対岸の山々は霞んでいる。松の木の下は浜風が通るさわやかな作業日。

活動内容:草刈り機を1台購入して今日から活用。作業は2台の草刈り機で主に保護区の外回りの除草作業をした。

①保護区の周り(広場側)、通路及び保護区内の除草。

②アメリカネナシカズラの駆除。

海浜植物

* ハマエンドウ:花は2～3輪残すのみとなり、種の鞘があちこちに見られる。葉は緑が濃く新葉も大きくなっているものや、葉が枯れているものもある。

* ハマゴウ:全枝から葉が展開し浜を覆っている。枝が上向きに伸びている一方、浜に向かって伸びているものもある。

* ハマヒルガオ:浜に花とともに広がっている。

ハマエンドウ



ハマゴウ



ハマヒルガオ



* アメリカネナシカズラ:前回と同じ場所の1か所に12、3本ハマヒルガオやカワラヨモギに巻き付いていたので駆除した。

今回購入した草刈り機



【活動報告】

* 2021年6月1日(火) 9時30分～11時40分

天気:晴れ 気温:24℃ 参加者:6名

観察状況:新海浜:波静か。対岸の山がすっきり見える。気温高く陽光強いが浜風が心地よい作業日。

活動内容:①保護区の周り(1本松通路側)、浜の除草作業。

②アメリカネナシカズラの駆除。

海浜植物:(5月28日とあまり変化なし)

* ハマエンドウ:花は2～3輪残し、種の鞘があちこちに見られる。葉は緑が濃く新葉も大きい。

* ハマゴウ:全枝から葉が展開し浜を覆っている。枝が上向きに伸び、茎は浜に向かって伸び、葉が大きくなり花芽の準備が進んでいる。

* ハマヒルガオ:浜に花とともに広がっているが葉が黄色くなりかけた。

* アメリカネナシカズラ:5月11日に駆除した場所にハマゴウやハマヒルガオに3か所巻き付いていたので駆除した。⇒ ⇒ ⇒ 5月28日にはなかったのに。

また、オオキンケイギクも3本駆除した。



【活動報告】

* 2021年6月8日(火) 9時30分～12時00分

天気:晴れ 気温:25℃ 参加者:6名

観察状況:新海浜:対岸の山々は薄く霞が掛かり、波は静か。

やや蒸暑いが保護区は浜風が心地よい作業日。

活動内容:先週に引続き、雑草が種を落とす前、雨等を考慮して、

- ①保護区、浜の除草作業(チガヤ、コバンソウ、センダン幼木、コマツヨイグサ、オオキンケイギク、ムシトリナデシコ、マンテマ等)
- ②アメリカネナシカズラの駆除(1か所 約20本)。
- ③第2浜の観察。

海浜植物

- * ハマエンドウ:花は一輪のみとなり、種の鞘が見られる。葉は緑が濃く新葉も大きくなっているものや、葉が枯れているものもある。
- * ハマゴウ:全枝から葉が大きく繁茂し花芽の準備が進み、浜を覆っている。枝が上に伸び、茎先が浜に向かっていている。
- * ハマヒルガオ:浜に花と共に広がっているが、萎れた花と黄色の葉と種の鞘が見られる。

【活動報告】

* 2021年6月18日(金)9時30分～11時45分

天気:曇り 気温:23℃ 参加者:5名

観察状況:新海浜:曇り空の下作業。湿度が高めだが涼しい。夕方雨予報、作業終了後帰宅中雨が降り出した。

活動内容:①保護区内、外での雑草(コマツヨイグサ、メヒシバ等)除草。

- ②アメリカネナシカズラの駆除。
- ③保護区東側に入れないようロープを張った。

海浜植物:

- * ハマエンドウ:花は終わってしまった。
- * ハマゴウ:葉が大きくなり、浜側に広がっている。花は未だ。
- * ハマヒルガオ:花は終わって果実が大きくなってる。

花、虫こぶが付き始めた
アメリカネナシカズラ。⇒



【活動報告】

* 2021年6月25日(金)9時30分～11時45分

天気:晴 気温:25℃ 参加者:6名

観察状況:新海浜:対岸の山々は薄く霞がかかり、波は静か。蒸暑いが保護区は割と涼しい作業日。

活動内容:①ミーティング(6月23日の大槻先生との会議内容確認)。

- ②保護区、浜の除草作業(センダン幼木、コマツヨイグサ・メヒシバ等)。
- ③アメリカネナシカズラの駆除(今回、ホームグラウンドのハマゴウに巻き付く蔓を発見) 3か所 約13本 及び1m×1.5m。
- ④アリジゴクの観察と幼虫の捕獲。数えきれないほどのアリジゴクを確認。
- ⑤「海浜植物守りたい」活動看板の設置。

海浜植物:

- * ハマエンドウ:花は見当たらない。葉が枯れはじめ地面が目立つようになった。
- * ハマゴウ:浜にいっぱい広がって花芽があちこちに見られる。花も咲き始めた。
- * ハマヒルガオ:葉は枯れているもの、葉が生きているものもある。種が大きくなり目立つ。



アリジゴク



「海浜植物守りたい」
活動看板の設置

【活動報告】

* 2021年7月6日(火)9時30分～11時45分

天気:曇り一時雨 気温:28℃ 参加者:5名

観察状況:新海浜:さざ波が立つ波打ち際。水位は少し高い。

対岸の山々の中腹辺りまで雲がかかっている。蒸暑く作業中に一時小雨が降る作業日。

活動内容:①保護区の除草作業(コマツヨイグサ・メドハギ・カワラヨモギ、コマツナギ・メヒシバ等)。

- ②アメリカネナシカズラの駆除(6か所)。今回新たに確認。昨年発生した場所に広がっていた。2m×1m位。花と虫こぶがついている。

海浜植物:

- ①ハマエンドウ:葉が枯れ地面が目立つようになった。
- ②ハマゴウ:枝は浜いっぱい広がっている。蕾は全体につき膨らんできた。花は、6月25日の作業日とあまり変わらない。
- ③ハマヒルガオ:生き生きしているものもあるが、葉が全体的に枯れ始めた。

以上

3. 生活実験工房からのお知らせ

生活実験工房のイベントとして、
6月6日(日)には「豊かな生きものを育む水田講座(初級)」
7月25日(日)には「昆虫採集」
を実施しました。

6月のイベントでは中干し前の田んぼで水生昆虫などを中心に観察しました。7月のイベントでは博物館の敷地内の森や原っぱで陸生昆虫を中心に観察しました。どちらのイベントも、大人から子供まで笑顔で楽しみつつも、メモを取ったり質問したりと、とても熱心な姿が見られました。また、遠方からお越しになったお客様も多く、琵琶湖博物館の発信力や価値を再認識致しました。

今後もしっかりと感染症対策を行いながら、質の高いイベントを提供できるよう努力して参ります。



6/6 豊かな生きものを育む水田講座(初級)

【活動予定】

開催時間：10:30～12:30(受付10:00～) 場所：生活実験工房
稲刈りについては、各自、長靴、着替え等をご用意ください。

- 9月12日(日) 稲刈り、ハサ掛け(早稲品種)
- 10月3日(日) 稲刈り、ハサ掛け(晩稲品種)
- 11月21日(日) 秋の生き物を探そう
- 12月19日(日) しめ縄づくり
- 2月6日(日) わら細工

担当: 交流係



7/25 昆虫採集

4. その他の事項

(1) はしかけグループの活動に初めて参加する場合

ニューズレター発行後、活動日・活動場所が変更になる場合があります。グループの活動に初めて参加する時は、事前に各はしかけグループの担当者に確認をお願いします。メールの場合は、グループ代表アドレス(各グループの報告欄に掲載)にご連絡ください。

(2) 名札(会員証)の写真について

名札(会員証)の写真を更新されたい方は、はしかけ制度担当者 hashi-adm@biwahaku.jp まで送って下さい。ただし、必ず本人確認ができるものに限りです。

(3) はしかけ会員証の携帯のお願い

はしかけ活動で来館する場合は、会員証を必ず持参してください。会員証を携帯せずに活動することは、原則的にできません。

(4) はしかけ活動中に事故が起こったら

はしかけ会員は、ボランティア保険に加入する必要があります。加入時に、ボランティア保険加入カードが各自に配布されますので、活動中に事故などが発生した場合には、加入者カードに書いてある連絡先(社会福祉法人 滋賀県社会福祉協議会 TEL: 077-567-3920 FAX: 077-567-3923)へ、速やかに連絡してください(各人で連絡)。

なお、手続きには、グループ担当者(学芸員)の活動証明が必要ですから連絡してください。

詳しくは、最新年度の「ボランティア保険」パンフレットをご覧ください。「ボランティア保険」のパンフレットは、はしかけ事務局(博物館事務学芸室)にも置いています。